



第4回定例議会 <12月7日～12月16日>

平成23年度12月補正予算	P2～P3
11月臨時議会・意見書提出	P4
陳情・要望審査結果	P5
一般質問 16議員が町政を問う	P6～P13
委員会報告	P14～P15
がんばっています (豊平南小学校)	P15
議会傍聴記	P16

平成23年度12月補正予算

一般会計 7億2,000万円を計上

▼一般会計12月補正予算の概要

●地方債の繰上償還(借金の前払い)	2億 631万円
●除雪費	1億5,790万円
●財政調整基金積立金(貯えるもの)	1億5,000万円
●道の駅駐車場増設工事等	3,427万円
●農業基盤整備事業	2,607万円
●若者定住促進住宅(志路原)設計・造成	866万円
●芸北統合小学校(仮称)改修設計	643万円
●子宮頸がんワクチン接種追加	609万円
●予備費(大雪対策費等)	2,071万円



▲除雪車



▲若者定住促進住宅(雄鹿原)

▼12月補正予算の規模

会計名		補正前	補正後	補正額
一般会計		149億7,600万円	156億9,600万円	7億2,000万円
特別会計	国民健康保険	21億5,530万円	22億6,930万円	1億1,400万円
	下水道事業	7億円	6億6,600万円	▲3,400万円
	介護保険	22億150万円	24億7,420万円	2億7,270万円
	簡易水道事業	3億1,500万円	3億1,400万円	▲100万円
	芸北財産区	2,420万円	2,480万円	60万円
	診療所	1億6,310万円	1億6,400万円	90万円
	情報基盤整備事業	3億6,460万円	3億9,680万円	3,220万円
	後期高齢者医療	2億5,920万円	2億5,930万円	10万円
水道事業	収益的収入	1億4,215万円	1億4,239万円	24万円
	収益的支出	1億3,350万円	1億3,806万円	456万円
	資本的収入	858万円	1,688万円	830万円
	資本的支出	4,421万円	4,426万円	5万円

議案に対する主な質疑

北広島町有千代田住宅条例 (現雇用促進住宅)

問 連帯保証人を「町内居住」としているが、他の町営住宅の条例に同様の規定はあるのか。

答 ない。「町内に居住する者」ということではなく、事例的なものを例挙げた。

北広島町 一般会計 補正予算(第3号)

問 住宅使用料の債権の回収方法は、

答 電話、戸別訪問し、分割払い等で収納。

問 小型合併浄化槽設置整備資金が減額になっっているが、

答 予算より申請が少ない。

問 財政調整基金の積立目標は、

答 予算規模の1割程度。

問 資源ごみリサイクル総ぐるみ運動予算が増額されているが、団体の途中参加はできるのか、また地域ごとの登録団体数は、

答 随時受け付けている。芸北8、大朝1、千代田9、豊平16団体。

問 がん検診の診察率向上の具体策は、

答 具体的なものはない。

問 県から権限移譲の除雪費が翌々年度精算になっっているが早められないのか。

答 改善できるかどうか確認し、要請する。

問 国土調査の進捗率、見通しは、

答 73%。いつごろ終わるのかわからない。

問 23年度の災害復旧の進捗率は、

答 29力所中、15力所を発注。

問 広域農道工事の現状と見通しは、

答 広域農道工事の現状と見通しは、

問 豊平支所・芸北工区はトンネル工事に着工、工期は26年まで。豊平支所・千代田工区は今田方面からトンネルまで土工工事に着工、工期は29年予定。

問 道の駅第2期整備事業で国庫支出金が減額になっっている理由は、

答 土地購入について開発公社の取得価格で交付金を積算したが、

問 国は現在価格で算定したため、交付金が5525万円が減額となり過疎債をあてた。

問 建設業者にとつて除雪機購入と維持管理は大変であり、リースは考えていないのか。

答 今のところ考えていない。

問 工事ミスした大朝の筏津橋工事が止まっっているが、

答 県から河川協議で許可が下りてからといわれ一時中断している。

反対討論

賛成討論

議案 第92号 北広島町有千代田住宅条例

反対討論 美濃 孝二

第11条の連帯保証人の資格について「町内に居住するもの」としているが、他の住宅条例にはこのような規定はない。厳しい規定を設ければ町外から北広島町に転居しようと思つても、北広島町内に知人がいなければ申し込みをあきらめる方もでると考えられる。答弁では「町内に特定したものではない」と説明するが、わざわざ誤解を招く規定は明記する必要はない。できるだけ多くの方々に入居してもらうため、「町内居住」の規定を削除し、提案しなおすべき。

賛成討論 なし

議案 第97号 平成23年度 北広島町 一般会計補正予算(第3号)

反対討論 美濃 孝二

道の駅・舞ロード第2期整備事業の測量設計等委託料増額の中に、レストラノ業態及び運営形態の調査、検討業務の追加が含まれている。しかし広さ、舞台、バイキングなどのハードの面に問題があるだけでなく、採算の見直しもない舞台付きレストランを前提とした調査費である。また道の駅の土地購入について、国が認めなかったため5500万円も交付金が削減され、町が借金せざるをえなくなった大問題をこちらから聞くまで説明しなかった。

賛成討論 箕牧 智之

一般会計補正予算について、主たる支出を精査してみると補正額の半分にあたる3億5631万円は財政調整基金と公債費の繰り上げ償還である。他には町道の除雪費予算であり、ならんら反対するような理由はない。1億円を超えるほどの雪が降らないことを願つて賛成討論とする。



臨時議会（11月25日）

職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部を改正する条例

提案理由

人事院が国家公務員に対して勧告した給与の引き下げを採用した提案。

反対討論

梅尾 泰文

昨今の状況は、給与所得者で年収200万円以下の世帯が23%であり、年金受給者も労働者の賃金の引き下げにより受給額が減っている。誰もが勤労により生活でき、老後も安心して暮らせる社会でなければならぬ。生活保護世帯も戦後の混乱期を上回る205万人となり、働きたくても仕事がない状況が生まれている。賃金や年金額が高いと引き下げると、下がっ

たところを基準にさらに下げる。

負の悪循環に乗っかることになり、あぬけの唾（天に唾すること）で最後は自分に降りかかることになる。そのことは生活の改善につながる。消費拡大もできず町も活性化しない。どの観点から見ても利点はないため反対する。

他、反対討論 美濃孝二

（討論内容省略）

賛成多数で 原案どおり可決



要望書提出

年金受給者資格期間の10年への短縮を求める意見書

提案理由

公的年金制度の最大の問題は、膨大な数の無年金者の存在であり、この問題の解決は国民の老後の生活保障の上から喫緊の課題である。無年金者をつくっている原因の一つが25年と長すぎる受給資格期間であるため、10年への期間短縮を求める意見書の提出を行う。

【提出先】

・内閣総理大臣 ・厚生労働大臣

シルバー人材センターに対する国の補助金増額を求める意見書

提案理由

平成21年度の行政刷新会議の事業仕分けでシルバー人材センターの補助金削減が図られ、センターの運営は困難を極めており、運営費の合理化に努めてい

るが限界に達している。シルバー人材センターが果たしている役割をしっかりと理解し、町民へのサービス低下を招かないためにも、補助金の増額を求める。

【提出先】

・内閣総理大臣 ・財務大臣
・総務大臣 ・厚生労働大臣

児童・生徒の安全な通学路確保のための街灯設置についての要望書

提案理由

近年、子どもたちを襲う許し難い事件が各地で発生しており、行政が児童・生徒を守り、安心して通学路に整備することが緊急に求められている。今後全町の通学路の状況を調査し、必要などころへの街灯設置を求める。

【提出先】

・北広島町長
・北広島町教育委員会教育長

陳情要望審査結果

陳情第15号

年金受給資格期間の
10年への短縮を求める陳情

採択

要望第9号

長寿社会における自立した生活の実現を目指す
「シルバー人材センター」への支援の要請

採択

陳情第18号

生徒の安全な通学確保のための街灯設置

採択

要望第8号

障害者施設整備に係る要望書

採択

陳情第20号

学校の耐震化を求める陳情

採択

陳情第22号

第2期道の駅舞ロードーC千代田
整備事業の再考について

不採択

反対討論

賛成討論

陳情に対する
賛成討論・反対討論

陳情書

第2期道の駅舞ロードーC千代田
整備事業の再考について

賛成討論

美濃 孝二

反対討論

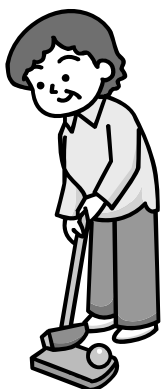
久茂谷美保之

グラウンドゴルフ場はグラウンドゴルフ協会の方々が手塩にかけ整備し、お年寄りからも大変喜ばれている。しかし道の駅整備に際し協会に十分な説明、また相談もしていない。陳情を審査した産業建設常任委員会も陳情者の意見を聞いていない。

広場の活用について様々な意見があり、協会の意見も参考にすることは必要である。

第2期整備検討委員会は、グラウンドゴルフ場としても存続すると答申し、すでに解散している。

この陳情の趣旨は、出発点に戻り委員会にグラウンドゴルフ協会のメンバーを入れ再度審議しなおしてほしいというものであるので反対する。



どうなる？
私たちの
町づくり

16 議員が町政を問う

問 農業委員会の機能強化と支援策は

答 引き続き条件整備に努める



中村 勝義

問 7月の一般選挙で38名から22名と定数減となった。女性農業委員がひとりもない結果となり残念である。農業委員に課せられた責務は、農地法に基づき申請される案件を適正に処理することと、農地を守り育てることが大きな使命であり課せられた役割だと思ふ。少数精鋭となったこの時、行政として農業委員会の機能強化に向けた支援策を問う。

答 全委員で編成する農政部会に組織を再編成され、拡大した担当地区の早期掌握、研修会等への積極的な参加、独自の勉強会の計画等により今まで以上

に資質の向上を図られている。引き続き各委員が十分に活動できるような条件整備に努めていく。

ふるさと納税3年
その実績と活用策は

問 ふるさとを愛する人から広く寄付金を募り活力あるふるさとづくりに関する事業を実施する目的で生まれた制度である。現状を問う。

答 ①現在までの累計額とこの間の処分額
②基金残高と今後の活用策

答 ①平成20年度からの累計額は、11月30日現在61件の718万円、処分額は500万円。
②現時点での残高は218万円、今後は、使途希望ごとの積み立て状況を勘案しながら実施する事業について検討を進めていく。

問 産廃反対、畑地区民意の尊重を

答 畑地区民の同意のない現状を県に伝えている



亀岡 章治

問 現在北広島町畑地区における産廃最終処分場状況は、安定型ですでに完了しているもの7・1ha、現在実施中のもの6・3ha、更に現在事業申請中の「アストロ株式会社」2・2ha、「西部興産」9・2haがあり、トータル面積は25haに及ぶ膨大なものだ。もうこれ以上畑地区にゴミや残土はいらない。住民の飲料水を汚すな、源流地域の水を守れ畑地区住民の反対運動は、平成7年地区全員の反対決議、11年の9167名の反対署名、18年の町・議会・広島県西部地域事務所への要望書の提出等、

答 ①町長はこれまで地区民に対し新規事業は推進しないと説明されている。変わりはないか。
②先般本町の議員2人が推進に行ったと聞いている。町長と協議があつたのか。
③業者の要請の頻度は。
④議会で県が事業を行っている先進事例を研修してきた、町長として県へ要望の意志は。

思いは切実である。
①町長はこれまで地区民に対し新規事業は推進しないと説明されている。変わりはないか。
②先般本町の議員2人が推進に行ったと聞いている。町長と協議があつたのか。
③業者の要請の頻度は。
④議会で県が事業を行っている先進事例を研修してきた、町長として県へ要望の意志は。
答 ①産廃はある意味当該地域にとつて迷惑な施設で、同意の得られていない現状では推進できない。
②推進の立場で来られた事はある、協議はしていない。
③幾度となく来られる、立場上聞いている。
④県へ要望の意志はない、見通しが無い。

問 道の駅「舞ロード千代田」 第2期整備計画を問う

答 農業の振興を基本に 北広島町玄関情報発信する



藤井 勝丸

問 道の駅「舞ロード千代田」のこ
れまでの投資と成果は。

答 第1期事業(広島県・道路公団
との共同事業。平成16年開業)

【事業費】

北広島町…3億9000万円

(追加投資を含む)

広島県…7億9000万円

道路公団…7000万円

【売上高】

平成16年…3700万円

平成22年…2億1700万円

【来客数】

平成16年…3万8000人

平成22年…19万5000人(外70%)

問 第2整備計画の概要は。

答 総事業費…9億2000万円

産直施設・舞台付きレストラン

…2億9000万円

駐車場増設他…1億7000万円

産直システム整備等…4000万円

平成25年7月オープンを目指す。現
在施設は以後改修する。

問 神楽を中心としたイベント
施設、レストラン施設など投資

効果はあるのか、地元飲食業者の理
解、グラウンドゴルフ協会との事前
協議は適切であったか。

答 小ホールならではの臨場感、
観客との一体感、食事をしなが

らイベントを鑑賞する、他にない施設
なので競合は少ない。飲食組合の理解
は得ている。野菜をメインのバイキン
グ方式で近隣にはない業態である。専
門家のアドバイスを受け計画中で民
営化(指定管理)の方針である。

グラウンドゴルフ協会とは2回
協議した。

問 JAとの連携、生産者への支
援育成など生産出荷体制は強
化されたか。

答 売り上げデータを基にJA
と連携協力し売れ筋の農作物
の生産指導、「出荷協議会」の立ち上
げ、きたひろネットを活用した「集
出荷システム」を開設するなど生産
出荷体制の強化を図っている。

問 若者定住促進住宅建設の継続を

答 今後も若者定住のため建設に取り組む



宮本 裕之

問 現在、芸北地域で建設中の
2棟の若者定住促進住宅には、

応募者が10件と5倍の競争率で
町外からの応募も2件あり大き

な反響を得ている。今年建設予定
の志路原団地の若者定住促進住
宅も多くの応募が見込まれる。今
後も継続して若者向けの住宅を
建設することが、本町の人口と子
どもの増加につながるものと思
えるが継続の考えは。

答 入居希望者が5倍になり大
変好評を得ていると実感する。

自然豊かな北広島町で若者向け
の住宅を建設することで若い世
帯が増え子どもが増加も期待で
きる。こうした住宅の建設整備に
今後も取り組む。

倒壊危険建物の対策は

問 持ち主が管理していない
倒壊危険建物が多く見受け

られる。条例制定して積極的に
持ち主に撤去を促す自治体も増
えてきているが、本町も事故が
発生する前に何らかの対策を講
ずるべきではないか。

答 町として倒壊危険建物を
調査したことはない。建築

基準法でも著しく危険を予想さ
れる建物は持ち主に対し、撤去
を命じることができることにな
っており、今後条例制定も併せ
て調査検討していく。



▲建設中の若者定住促進住宅(雄鹿原)

問 TPP交渉参加に対する町長の見解は

答 基本的には反対の立場である



大林 正行

問 TPP(環太平洋連携協定)は全ての品目の関税撤廃や金融・医療などあらゆるサービス

の自由化が対象になる。TPPに参加し農業分野の関税が撤廃されれば、ほとんどの農産物が外国からの輸入物に替わる。そして農業をやめる人が増え農地は荒れ放題になり、集落は崩壊してしまう。これに対する町長の見解は。

答 わが国の農業の競争力は脆弱であり、関税が撤廃されれば甚大な影響を及ぼすというのが本質的な側面である。

先般、全国町村長の決議としてTPPの参加協議に反対の決議を行ったが、私も基本的にはこの立場に沿ったものを考え対応する。

問 TPP参加によって本町の農業はどのような影響を受けるか。また、対策は。

答 今の時点で具体的な対策を講じる状況ではない。

問 多発する交通事故対策について

答 本地地区の国道で老人の交通死亡事故が多発しているが、追い越し規制の延長、横断歩道の新設、街路灯の整備をする考えは。

問 町としては具体的な要望に要望していききたい。

答 内容を整理確認して各機関に要望していききたい。

問 反射タスキなどを配布する考えは。

答 交通安全協会と協議していく場を設けてやってみていと思う。



▲反射タスキ

問 国の重要文化財から国宝へ

答 難しいが研究の必要もある



梅尾 泰文

問 千代田の古保利地区に、国の重要文化財の仏像(薬師如来坐像など)が12体ある。これらの仏像は1200年前のもので、収蔵庫にはこのほか多くの貴重な仏像もある。

またこの敷地内には、山門、講堂、おさすり堂、阿弥陀堂などがある。すばらしい財産を地元の方たちが守り続け、町がその管理継承を行っている。地方にこれだけのものが揃っていることは稀である。重要文化財から「国宝」にすることは考えていないか。

答 現在の12体の重要文化財のうち、以前3体は国宝だった。法改正によって国宝は重要文化財になり、その中から優れたものが「国宝」に指定されている。「国宝」に指定されるには、文部科学大臣が国の文化審議会に諮問し、「重

要文化財のうち世界文化の見地から価値の高いもの」と認められること。学術調査を行い詳細な報告書等が必要となる。労力をかけても状況は厳しいので「国宝」指定は考えていない。

問 これだけ貴重なものが町内にあるのに、町内の人があまり知らない。今後のPRと学術研究を頼めないか。

答 ホームページ、パンフレット、マスコミ取材等積極的に言う。「国宝」に向けて厳し

いが、研究の必要もある。



▲古保利薬師の仏像群

問 町道・県道の交通安全対策は

答 要望にもとづき随時対応する



室坂 光治

問 町道や県道において、横断歩道やセンターライン等の白線が消え見えなくなっている箇所が多く見受けられる。

今の時期は一年で最も日が短く、交通量の多い時間帯に前方視界不良で交通事故も起こりやすい状態となる。視界が悪い時に白線が見えれば前方確認が出来ると思う。先日こうした状況下で死亡事故も発生している。安心安全な町づくりを施策として、白線等の整備については、どのように計画されるのか問う。また道路上の凹凸など町内で危ない箇所や事故の起こりやすい場所の安全対策についてその対応をお聞きする。

答 町は道路管理者として危険箇所等交通安全協会を通じ地域要望を取りまとめ整備を実施している。今後も同様な対応を行っていく予定。

白線の整備については、除雪により損傷等が予想されるので除雪作業終了後の施工を予定している。道路の維持・修繕については、これまでも随時実施しており、引き続き同様に取り組んでいく。安全対策については、具体的な要望内容を確認させて頂き、本年度590万円余りの予算付けをしているので、これにより交通安全施設の整備を進めていく。



▲横断歩道の白線

問 わが町の危機管理体制を問う

答 非常時、職員全員で万全を期したい



箕 牧 智之

問 東北地方を襲った大地震、津波、原発の事故は日本を揺るがすような災害であった。

北広島町の災害は過去では豪雨による災害が大きなものである。
今後予測される災害として、島根・愛媛の原発等による放射能被害もあるのではないかと。また岩国基地から飛び立つ戦闘機は芸北エリアを毎日のように低空で飛び回り、地域住民を不安に陥れている。災害が発生した時、情報はきたひろネットを頼みとするが大丈夫か。今後わが町にも放射能測定器等が災害必需品として常備しておく必要があるのではないかと。

答 災害時には県内また全国の自治体と相互救援の対策はつくられている。きたひろネットの整備は震度6までは大丈夫である。

町では騒音測定器の設備は今考えていない。
放射能測定器は県内7カ所で測定している。
今後の防災計画で検討課題として対応してみたい。



▲災害時身近に頼れる消防団(東日本大震災で253名が殉職)

問 連携型中高一貫教育を進めることはできないか

答 県教委や千代田高校と協議を進めて行く



之 和 倉 真

問 中高一貫教育を導入した成果は公立の中高一貫教育では生徒の育成・学力の定着、向上、教職員の意識改革指導力の向上、進路希望の達成、教育活動全体に成果があり特色ある教育では体験学習、地域特性、地域との連携を生かした教育の重視を言われる。

少子化が進む中で中山間地域に県立高校を存続するには中高一貫教育を進め教育レベルをあげていくことだと考えるが、お聞きする。

答 茨北地域は平成11年度から本格的に中高一貫教育に取り組み実績を着実に積み重ねている。

千代田地域も中高連携の充実が確実に図られ中高合同で研修会の開催、先進校視察、高校教



▲千代田高等学校

員の中学校への乗り入れ授業等連携が着実に進み今後の教育的効果を期待している。千代田中千代田高校の中高連携は進めるが、大朝豊平地域は地元で県立高校がなく中高連携を進めるには若干薄い面があるが、設置者同士が制度として整備されていない。千代田高校が何を特色としてとらえ魅力ある学校とすか高校は卒業後の進路実績であり、高校がそれを打ち出すことが大切である。

地域が高校を支える意識の醸成やPTA同窓会が支援体制を整えるなどの熱意が重要と考える。

問 壬生の花田植世界無形文化遺産を問う

答 今後も保存・継承に向け支援をしていく



樹 静 山 日

問 ユネスコに登録された快挙をどう受け止め、これからの支援は。

答 伝統を継承され本町の農耕文化が日本代表として認められた。飾り牛・花田植保存会関係者のもとより町民上げての喜びであり光栄でもある。これから保存・活用・継承に覚悟をもつてしっかり支援をしてゆく。

問 飾り牛の育成は。

答 壬生の花田植の特色は飾り牛である。養育することが困難な中、その労苦に感謝している。将来にわたり持続可能な方法を飼育農家と相談、行政としても模索して行く。

問 花田植の資材は分散保管している。今後保管場所の確保が早急に必要である。

問 用具類の収蔵には問題がある。田楽団・保存会と協議し保管場所のあり方を考える。

答 田楽団・保存会と協議し保管場所のあり方を考える。

問 花田植への公開場所は。来年度の公開には多くの観客が予想される。嬉しくもあり怖くもある。現在地が「最もふさわしい」と判断。来年の花田植を円滑に実施する為には地元と協力、可能な限りの対応を整える。

問 田楽団の用具など財政的な支援が急務と考えるが。登録が急遽決定した。これまで以上に公演が多くなり活発になる。両団体の意見もしっかり聞き、今後の課題を整理し、伝統を継承するために中・長期的に考えて行く。

問 ユネスコの登録記念事業として「北広島町大花田植大会」開催を要望する。

答 突然の決定で準備が間に合わなかったが将来的には行事として考えてみたい。

問 総務常任委員会の視察から

答 都市型と各エリアごとの就労の場作りが必要



濱田 芳晴

問 総務委員会では若者が定住する長野県の下條村と川上村の視察をおこなった。

下條村は飯田市のベットタウンとして若者定住促進住宅の建設と少子化対策でこれから結婚する若者や子どものいる若者の定住を進める村。川上村は陸の孤島であったが、藤原村長は村職員から村長になり20数年リゾート関連には手を出さず、農業基盤作り一筋で20歳代、30歳代の農業従事者一戸当り2500万円の売り上げで若者が定着した。消防団員は40歳で定年とか。

北広島町は20歳代30歳代の経済活動をどこに求めて定着させるのか考えを伺う。

答 平成17年のセンサス調査で20歳代30歳代の若者は3100人町内就労、今後町内工業用地に企業誘致求人活動をし、若者の定住を図る。

Iターン者には住宅補助、子育て支援、千代田住宅、芸北・豊平に若者向きの住宅建設。農業も新規就農者に2カ年の研修後、独立支援をする。都市型やエリアごとの就労の場づくりも考える。兼業農業も進めていく。新規希望者も今年3名あり、今後10年は事業を続ける必要があると考える。これに子育て支援・教育支援をからめ若者の定住を図る。



▲期待される農業就労

問 資源保護の観点から「小型製紙装置」導入の考えは

答 他の自治体の検証を踏まえ状態を見極めていきたい



中田 節雄

問 現在、コピー用紙の使用量が、大変な量になっており、会議資料等で不要になったコピー用紙が大量に発生している。

そのほとんどが焼却処分されている。この使用済みのコピー用紙を100%再生紙にする装置があり、省エネや環境問題の解決の一助になる。紙も限りある資源であり、CO2削減の観点からも、この装置を積極的に導入し、環境問題に積極的に取り組む自治体として、アピールしていくべきだ。この小型製紙装置について調査研究し、また収支について検討されたことはあるのか伺う。

答 本庁で使用しているコピー用紙はA4サイズで239万枚であり、相当の使用量となっ

ている。指摘のあった小型製紙装置で再生できるものは、トナー印刷された用紙に限定されており、インク印刷された用紙はできない。また機械のリース料、水道料、電気料、保守点検料を計算すると、コスト面で高くなる。しかし、資源保護の観点からも、町単独でなく、広域的な取り組みも含めて考えていかなければならない問題として認識している。しかし、機械の性能をしっかりと見極めて、自治体のトップランナーというよりも、二番手として考えていきたい。



▲大量に使用されるコピー用紙

問 加計山麓を太陽光発電の適地に

答 国・県・企業の動向を注視し積極的に取り組む



伊藤 久幸

問 約200町歩を有する町も加計山麓。有効利用策が現在

も見い出されていない。大震災福島原発の崩壊によりクリーンエネルギーの代名詞であった原発から脱原発に世論は変わって来た。再生可能エネルギーとして太陽光発電が急浮上し県では、千代田工業流通団地・豊平分校跡地が候補地に上がった。本町の取り組みは。

候補地には上がっていないが、加計山麓を国・県に対してメガソーラーの適地としてアピールする必要が有ると思うが本町の所見を問う。

答 千代田工業流通団地のメガソーラー設備設置も視野に拡大し、国・県・企業の動向を注視し有休地の有効利用の観

点からも積極的に誘致に取り組む。

加計山麓のメガソーラー建設は造成整備、気象条件等から判断、県とも協議し検討していく。

田原志路原間の道路改良は

問 県道312号線、町道志路原線・林道松大線は地域

間を連絡する道路で、観光・生活道として重要な道路である。現在の進捗状況を問う。

答 県道については道路改良の要望を県安芸太田支所に行っている。

重要路線と位置づけ、更に要望していく。町道林道については現在改良計画はない。県道の拡幅要望を含めて検討していく。

※メガとは「大きい・巨大」の意味
単位は100万

問 10億円の道の駅・舞ロードは採算がとれるのか

答 商圏は39万人、詳細な計画はこれから



美濃 孝二

問 道の駅第2期整備は10億円の大事業であるが、野菜

バイキング形式の舞台付レストランが全体の3分の2をしめ、産直・物販施設は3分の1しかなく狭すぎる。採算がとれる根拠を示せ。

答 千代田・安佐北・安佐南区の39万人が中心商圏。年32万人の来客、レストランに7万1千人。産直・物販は今の倍の売上が目標。

問 あまりにも根拠のない空論だ。千代田工業・流通団地への12億円、ケーブルテレビの4億円、土地代が未払いの北ホテルなど重大問題がおきても説明もせず誰も責任をとらない。二の舞にならないようデータを示せ。

答 これから決めていかなくはないけれども、たくさんある。

問 検討委員会の答申を尊重し1コースでもグラウンドゴルフ場を常設すべき。
答 常設しない。

産直農家育成のため農協との連携を強めよ

問 安芸高田市は副市長、広島北部農協組合長を中心に2カ年に1回、連携協議会を開き、市職員や改良普及員のOBを農協に派遣している。生産者は1人でありバラバラでなく一体となって支援する必要がある。北広島町も連携を強めるため町長から声をかけてはどうか。

答 町行政は総合的な農業振興を図る役割があり、独自の施策をすすめていけば農協の全面的な理解協力は得られる。

問 北広島町シルバー人材センターへの支援強化は

答 割を尊重しながらセンターと協議し検討する



大下 正則

問 センターは、高齢者が長年

培った経験と技術等の能力を活かして、社会に貢献することと高齢者本人の健康維持と増進により医療・介護財政の軽減で元気な高齢者を維持することを目的に、健全な運営が図られてきている。しかし、政府が行った事業仕分けにより国からの補助金が激減し運営面の合理化は限界に近い状況にある。センターのサービス機能の充実、事業推進強化に次の項目を問う。

- ① 町補助金の増額
- ② 公共事業の就業斡旋
- ③ 公共事業の就業事務費の改定
- ④ 剪定作業・除草作業で出る枝葉・草等の処分地の確保
- ⑤ 行政管理施設の業務委託

答

センターとしての役割は十分果たしていただいている。総事業費の内、公共事業の割合が少ないのは逆に言えば住民への認知が高く、よく利用されていると言える。

- ① 現状維持以上考えていない。
- ② 他の市町村との比較はできないがどの程度業務依頼が可能か。
- ③ 近隣市町の事務費比率の実態を考慮し検討する。
- ④ リサイクル処分地の確保を考える。しかし、「廃棄物処理及び清掃に関する法律」があるので抵触するか検討が必要。
- ⑤ 2項目と同様に研究する。いずれにしても地域活力向上のためセンターと協議する。



▲松の剪定作業

問 消防本部の広域化計画、その後は

答 現状は不可能



田村 忠紘

問 平成20年広島県は、現在13

ある県内の消防本部を平成24年までに5本部に統合する方針を打ち出した。

北広島町消防本部も計画の中に組み込まれ、広島市を中心とした西部地域に統合するというものであるが、その目標年度まで1年余となったが、進捗状況は。

答

当初計画で西部地域は、広島市消防局と府中町、廿日市市、大竹市、安芸高田市、北広島町の各消防本部をくくりにした案であったが、広島市と廿日市市は、市内での合併が終了し、府中町、安芸高田市は、現状での運営方針で合併の意思がない。

合併のメリットは、人員、車両、

装備、資機材の充実はあるものの、規模や面積の増大による財政負担の増大や地元消防団との連携と信頼関係が希薄になるデメリットもあり、以上のような事情で当面合併を急ぐ予定はないと考えている。



▲北広島町消防署 消防車・救急車両

委員会報告

総務常任委員会

視察研修

(2011年11月16日～18日)

長野県下条村

- ・人口：4105人
 - ・面積：38平方キロメートル
 - ・標高：332m～828m
 - ・合計特殊出生率：2.12人
- (全国平均1.34人)

●若者定住促進

若者定住集合住宅の建設を平成9年度から開始。平成17年度までに9棟112戸建設。家賃3万6000円(2LDK)

●子育て支援

平成16年度から中学生までの医療費無料。保育園建て増しが間に合わない。用地が無い。図書館を充実。診療所に可動式温水プール。



▶下条村研修



▶下条村若者住宅

長野県川上村

- ・人口：4974人
 - ・面積：210平方キロメートル
 - ・標高：1100m～2595m
 - ・合計特殊出生率：1.83人
- (全国平均1.34人)

●農業

従事者の年齢が若い(20歳～29歳。全国平均の4.2倍)

レタスの生産全国1位(1戸当たりの年収2500万円)

一家総出で行う。外国人労働者を雇用する。情報化も進んでいる。

●医療費は高校生まで無料

●農閑期の健康福祉施設も充実



▶川上村研修



▶川上村総合福祉施設

文教厚生常任委員会

視察研修

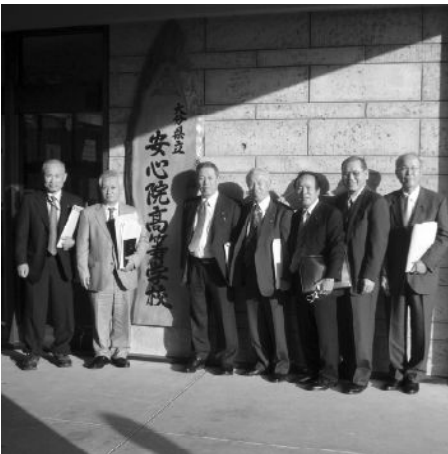
(2011年11月15日～17日)

11月15日(火)

「大分県立安心院高等学校」を視察

過疎地域における中高一貫教育の在り方を視察。

高校再編で廃校の危機を地元、同窓会、学校関係者の熱意で生き残りをかけた活動のなか、大学への進学率、就職率ともに目を見張るものがあり、保護者も安心して地元と周辺の中学校から安心院高校へ進学。大学進学等の希望者が多く活力あふれる学校になっている。全国の教育関係者から注目されている高校である。北広島町の教育は小学校統合が進みつつあり、小中一貫教育の在り方もこれから沢山の課題に取り組む必要がある。



▲安心院高校

11月16日(水)

大分県の福祉施設を視察

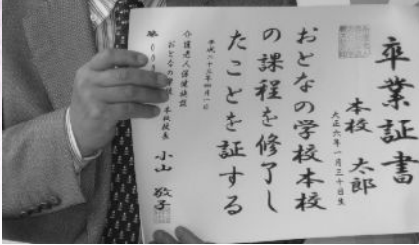
特養老人ホーム「白水長久苑」を視察。個室40ユニットが設置され、入所されている高齢者は生き生きとした日常生活をしている。

11月17日(木)

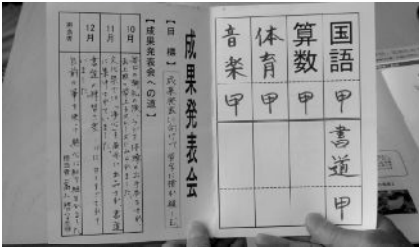
熊本県介護老人保健施設「大人の学校」を視察

高齢者がはるか昔に戻ってなつかしい小学校生活を送るような施設であり、高齢者が生き生きと過ごしていた。

「入学は入所」、お勉強はなつかしい国語・算数・音楽・体育。「卒業は、退所」で卒業証書までが用意されたユニークな施設で首都圏にも進出しており、全国の福祉関係者から注目される施設である。



▶ 卒業証書



▶ 大人の学校通知表

がんばってます

豊平南小学校

豊平地域の小・中学校では、平成25年度小学校統合・小中一貫校に向けて合同授業や合同行事等に取り組んでいます。

今年度は、豊平中学校に小中連携加配教員がついたので、その教員が3小学校の音楽の指導を担任とともにを行っています。

その取り組みの一環として、11月20日の「豊平そばまつり」において、小学校3校の5・6年生が合同で合唱を披露しました。曲名は「おおぞらさんか大空賛歌」ウィズユウ「With you smile」でした。

11月1日には、どんぶり広場に集まって、本番のための練習をし、少人数では果たせなかつた大合唱で、音の響き合いの美しさを感じることができました。

そばまつり当日は、NTT吹奏楽団の伴奏で歌うことができました。吹奏楽団の伴奏に負けないよう、力を合わせて堂々と歌いきりました。

子ども達の歌声とその姿を、地域や保護者の方に絶賛していただきました。このことは、児童の大きな自信となりました。

2月5日に行われた「豊平冬の陣」において、3小学校の5・6年生の児童とともに、豊平中学校1年生の生徒と一緒に参加しました。

平成25年度の統合時に、中学生になっている3学年が揃って、「豊平の四季」を合唱と語りで披露しました。

今の中学1年生は、2年後の平成25年度には、中学3年生となって豊平小学校を引っ張っていきます。その子ども達を中心にその発表でした。心を一つにして歌う姿を、多くの方々にご覧いただきました。



▲豊平3小学校による合同合唱



議

会傍聴記

私の議会傍聴は、合併当初、初町議会の雰囲気はいかがかと思ひ、2、3回傍聴しました。その後は多忙に追われる日々を過ごしておりましたが、平成22年9月議会から、きたひろネットで議会中継が行われ、自宅において、その様子が分かるようになったことは画期的なことです。

平素町民が考え望んでいる事柄について、議員の皆さんが代表して、所見を述べ論じられる様は、町広報、議会報等の文書により町民に伝達される以上のものがあり、町政がより身近なものに感じられるようになりました。また近々これが録画構成によって、再放送されるようになるとの事で、より便利な議会情報の提供になると期待しています。

合併前、旧4町の議員数は54名でしたが、合併時26名に減員し、更に現在は20名となっています。以前は地域代表的な側面もあつたことは否めませんが、これからは広域的に物事を見、公平性を考えつつ、将来への展望をもつた町政を推進されることを願います。議員各位の一層のご活躍を祈念致します。

芸北地域 溝口

清見善憲



表紙の写真

1月8日、平成24年の北広島町成人式が、千代田開発センターで開催された。

該当者は193名(芸北30名、大朝26名、千代田116名、豊平21名)。

当日出席者は152名。「記念品受取者」は三上祥平さん、「謝辞」は伊藤真保さん、「20歳のメッセージ」は下田宏太さん。厳粛に式典は終了した。

あとがき

昨年から今年にかけて広島県のスポーツが面白い。

全国高校駅伝は、広島県世羅高校男子が2年ぶりの優勝を果たした。世羅高校女子は11位に入り、男女とも外国人留学生の頑張りが大いに光った。外国人留学生を世羅町の人々がわが子同様に引き受け育て上げている。そうした環境の中、箱根駅伝に出場した明治大学の鎧坂選手(世羅高校出身)も成長著しい。

都道府県対抗駅伝女子は広島13位、男子は11位と入賞はできなかったものの健闘した。男子の中学生選手の区間賞と区間2位の活躍は今後の広島県勢に大きな希望を与えてくれた。

さらに、森保サンフレッchie、野村カープが負けじとスポーツを楽しませてくれることだろう。がんばれ広島!!